

はよく梳してあり、其齒は雪の如く白く見え、自分の名を書かせた時に墨を摺り飛ばさず、又指を汚さなかつたわ不精者や不注意者の出来る事でない、して見れば僅かに十分間であるもの、予が視察した所は、賛辭の溢れるばかりの數十本の紹介狀に勝るは万円でわあるまいか？！

一口ばなし

近眼と石地藏

或時近眼が石地藏の前へ來まして、(近眼)アノ一寸お尋申します、この次の町までの位ごぞいますか。(地藏)……………(近眼)もしく次の町までは まだどの位ごぞいますか(地藏)……………(近眼)はてなこの人は聾か知らん、もしく、これは怪しからん人に散々物を言はせておいて 何時

までも黙つて居る、怒つた機会に石地藏の頭に駐つて居た鳥が飛んだのを見て(近眼)人に道を教へないから、僕も帽子の飛んで行つたのを知らせて遣らないんだ。

前號考(物の解)

- (一) Untie (結び付けること)とU言葉の中、一字だけ體代へると全く反對の語になるのは。答。iとtとを置代へるの Untie (はご)となりませす。
- (二) 自分のものであつて、自分よりも友達に多く使はれるものは、答。自分の名。
- (三) 背の高い人は、いつも怠者だといはれる譯は。答。寢床へ這入ると、いつでも人よりも長いから。